

【最新の正確な知識を習得】

- ・雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳等、場所を選ばずに落ちる。
- ・近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向がある。
- ・グラウンドや屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなる。

事前に降雨や雷鳴が聞こえるなどの予兆がないときでも発生する。

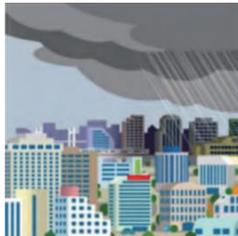
(降雨がない、雷鳴が聞こえないからといって落雷はないとはいえない)

【活動前(活動中)】→情報の収集・把握

- ・屋外活動の前の時点で、天気予報の雷注意報の発表の有無を確認する。
- ・屋外での活動前だけでなく、活動中も随時空の様子に注意し、**雷ナウキャスト**等の気象情報を活用しながら一定時間ごとに確認し、最新の状況把握に努める。
- ・事前に避難の場所と方法を確認し、参加者に周知しておく。また、再開不可の場合の代替え案を設定しておく。

○積乱雲接近(落雷の予兆)

真っ黒い雲が近づいてきた



雷鳴や雷光がある



急に冷たい風が吹いてきた



【活動の停止(中止)】→避難

天候の急変等の場合には、ためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずる。

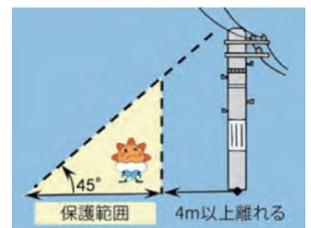
- ・部活動などの屋外活動を中断し、速やかに屋内に避難する。
- ・下校前の場合は、素早く情報を収集し、必要に応じて学校に児童生徒等を待機させる。その際は、学校の対応を保護者等に連絡する。

○雷鳴が近くで聞こえたら・・・

- ・登下校時に発生した場合には、近くの安全な場所に避難し、無理に屋外を移動しない。
- ・自転車に乗っている場合は、すぐに降りて姿勢を低くし、安全な場所に避難する。
- ・鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、電車の内部は比較的安全が確保されやすい。
- ・木造建築の内部も基本的に安全だが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れればさらに安全である。

○安全な空間に避難できない場合

- ・近くに避難する場所がないような場合には、低い場所を探してしゃがむなど、できるだけ姿勢を低くし、地面との接地面をできる限り少なくする。
- ・電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところに退避する。
- ・高い木の近くは危険のため、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上離れる。



【活動の再開】→安全の確認

- ・雷ナウキャスト、その他天気予報アプリ等にて必ず確認する。
- ・上空に雷雲がない。
- ・屋外の活動場所周辺で30分以上発雷がなく、新たな雷雲の発生や接近がない。

【その他留意事項】

- ・指導体制が変わった場合等にも対応に遺漏の無いよう十分留意する。
- ・児童生徒等においても、落雷の危険を感知した際には、ためらうことなく指導者に申し出るよう、子供の発達段階等を踏まえつつ指導する。また、登下校中の対応についても留意する。

【雷ナウキャストについて】

- ・雷ナウキャストとは、雷の激しさや雷の可能性を1km格子単位で解析し、その1時間後（10分～60分先）までの予測を行うもので、10分毎に更新して提供する気象庁のシステム。

気象庁ホームページ「雷ナウキャスト」

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/#lat:32.810362/>

[lon:130.691986/zoom:10/colordepth:normal/elements:slmcs&slmcs_fest&thns](https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/#lon:130.691986/zoom:10/colordepth:normal/elements:slmcs&slmcs_fest&thns)



参照：文部科学省「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/_icsFiles/afieldfile/2019/05/07/1401870_01.pdf

気象庁ホームページ「雷から身を守るには」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/nowcast/toppuu/thunder4-3.html>